

【元安川灯ろう流しについて】

私は元安川灯ろう流しの説明をします。

元安川灯ろう流しとは、広島県代表的な原爆ドーム前の灯ろう流しのことです。灯ろうには、亡くなられた方の名前と流した人の名前を書き込むのが一般的ですが、最近では国内外から旅行で来られた方々が「平和への思い」を書かれる光景も目立つようになったそうです。

元安川灯ろう流しは、昭和30年前後から地元商店街の店主達が、広島市の協力を得て自主的に開催しています。現在は広島市中央部商店街振興組合連合会が、所属の商店街、大型店の役員の方々と市民ボランティアの方々の協力の下に実施しています。

また、灯ろう流しの種火には、故・山本達雄さんが被爆から一か月後に本通の金正堂から持ち帰って福岡県八女郡星野村に保存されている「原爆の残り火」を採火して使用しているそうです。

【元安川灯ろう流しを体験して心に残ったこと】

灯ろう流しは、親族や知人を原爆で失った方々が供養のため手作り灯ろうを流したのが始まりだそうです。

私は笑顔であふれる世界でありますよという願いを込め灯ろうを流しました。

私達は、被爆した人達の事を決して忘れないという思いと、平和への思いを込めて参加しました。

灯ろう流しでは、たくさんの外国の方もいらっしゃいました。昼間とは、全く雰囲気の違い静かな夜でした。暗やみの川を明かりのともされた灯ろうが流れていく様子は悲しげでした。流れる灯ろうには、多くの人達による平和への思いが書かれていました。

私の心に残った事は、日本人だけではなく外国の方など多くの方が灯ろう流しに参加し、参加した全員が平和な世界になってほしいと願っている事です。この思いが後世まで続き、戦争のない平和な世界になって欲しいと思います。

僕は灯ろう流しに参加して心がとても温まりました。灯ろうの優しくおだやかな明かりが原爆で亡くなられた方々の魂を包み込むかのようなようでした。また、灯ろう一つ一つに人々の「平和」に対する様々な思いを感じることができ、それだけたくさん、人々の戦争という問題への意識が高まっていることも身を持って体感しました。

自分も栃木市の派遣団員として、灯ろうに「核兵器のない平和な世界へ」と願いを込めて書き上げました。自分の作った灯ろうを元安川にはなったときにたくさんの流れていた灯ろうの美しい景色が印象的でした。

灯ろう流しは、原爆で亡くなった方々の魂をなぐさめるだけでなく、参加した人々の心も「平和」の思いを強くさせてくれます。灯ろうの明かりで照らされた原爆ドームを見て、「平和」の輪が周りを包み込んでいた様子を感じました。

【元安川灯ろう流しを体験して学んだこと】

私は、灯ろう流しを体験して学んだことを発表します。

私は灯ろうに「核兵器がない平和な世界になるように」という願いをこめて書きました。他には、「みんなが笑顔になれるように」、「71年前のようなことが起きてはいけないと、次の世代に

伝える」というような願いが込められた灯ろうがありました。そして、元安川からはライトアップされた原爆ドームが見え、その幻想的な雰囲気は、平和の大切さを更に感じました。

その元安川の灯ろう流しには日本各地、世界各地から多くの方が訪れていました。世界中で平和への願いが強いことを感じました。

灯ろう流しに参加して改めて平和の大切さを学びました。

71年前、8月6日原爆投下直後、元安川に水を求めて、多くの被爆者の方が集まり亡くなりました。僕は、「二度と戦争がなく、世界の人々が幸せでありますように。」とメッセージを書き、灯ろうを流しました。亡くなった人達へのそれぞれの思いと、平和を願う気持ちが込められているのだと、感じました。また、たくさんの外国の方々も平和を願い灯ろう流しをされていました。世界みんなが、戦争のない平和の世界を願っているのです。

灯ろう流しを体験して、「平和」な世界のために、一人一人の思いが大切であり、世界で唯一の被爆国として、二度と戦争を繰り返してはいけないという思いを、伝え続けていかなければならないと、強く感じました。これらのメッセージが、世界の多くの人々に届くことを願っています。

以上